

いもち病

- ・ 葉、穂首、枝梗、籾、穂に発病し、育苗期から成熟期までのほぼ全期間に渡り発病する恐れがある
- ・ 高温乾燥時期（真夏）には発生が少なく、気温が下がってくる普通期作の出穂期以降で多湿条件が重なると発生が助長され問題になることが多い



左：苗いもち

中：葉いもち

右：穂首いもち

いもち病の対策について

- ・ 薬剤での防除が主となる。
- ・ 窒素過多になると発生を助長するため施肥に注意する。
- ・ 罹病籾からも伝染するため、種子消毒及び箱施用剤の処理については必ず実施する。

| 薬剤名 | 倍率 | 散布量 (10a) | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|-------------|--------|-----------|-------------------|------|------|
| ブラシンフロアブル | 1,000倍 | 100~150ℓ | 収穫7日前まで | 2回以内 | |
| ブラシン粉剤DL | — | 3~4kg | 収穫7日前まで | 2回以内 | |
| テクリードCフロアブル | 200倍 | — | 浸種前 (24時間種子浸漬) | 1回 | 種子消毒 |